

## 定例会 要旨 11月7日(水)

【定例会終了後 マスコミへの鈴木宗男代表挨拶 要旨】

国会状況の審議について。まずは特例公債法案を早期に対応すべき。  
特例公債法について、新党大地は賛成である。予算と一体であるから、これに対する自民党の対応はおかしいと考える。本日午前中に行われた衆議院の野党国対打合せにおいて、新党大地としてそのことを松木幹事長より明確に示させて頂いた。

11月3日、日本維新の会・松井幹事長と協議。その際の協議内容について、1点訂正をしたい。松井幹事長が後の記者会見で、大地は消費税の地方税化に反対の立場であるため、政策に違いがあると発表されたがこれは誤りである。大地は、いまの普通交付税のやり方を見直して、その枠を消費税の地方税化にもっていくというやり方は、まさに中央集権の打破であり、一つの知恵であるとする。各々の政党がそれぞれの理念を持って立ち上げているわけであり、選挙を考えての他党への擦り寄りや、媚びたりする必要はない。地域政党のファーストランナーである新党大地は、そのことを声高々に働きかけていきたい。

記者より質問「日本維新の会が全国1区に候補者を立てることについてどう思われるか」に対し。

松井幹事長との会談には出なかったが・・・多くの候補者を出すはあるが、それなりの人を集めて対応するというのは、時間もかかるし容易なことではないと考える。中川(一郎)先生の秘書をしていた頃から選挙には携わっているが、簡単に選挙で名前を書いてもらえるものではない。候補者の『質』はいかがなものか。大阪維新から日本維新に変わって支持率が低下している。(維新の会に)入った国会議員のメンバーを見てのことと思う。今後の候補者次第で国民の見方が変わると思う。

記者より質問「(次期総選挙で)新党大地独自の候補者はどのくらい立てる予定か」に対し。北海道選挙区は極力埋めていきたい。ただ無駄なエネルギーは使いたくない。

たとえば、北海道5区は自・民・みんなと擁立しているが、そこに参戦しても逆に自民が利することになるので、(無駄なエネルギーを使わないよう)考慮し判断をしたい。道外も同様に。

11月5日、国民の生活が第一の小沢代表と会談。先日の維新・松井幹事長との会談内容を報告。北海道内の選挙協力について、8区は生活から候補者を擁立したいとのことなので、これには大地が協力させていただく旨話をさせて頂いた。他の選挙区については大地の考えを述べさせて頂いた。候補者についてはしかるべき時期に開示をする。

【定例会 要旨】

「日本再興 大地の誓い」として、党の公約について最終打合せ

差別、偏見、冤罪の根絶

新自由主義との決別、格差根絶、貧困の撲滅

北方領土、竹島の領土問題、尖閣問題の解決

衆・参国会議員の定数削減、国会議員・国家公務員の特権的待遇の見直し

反原発の推進、原発に替わるエネルギーとしてロシアからの天然ガス・油の供給

消費税増税の反対

TPP 交渉参加の断固阻止

以上の項目を新党大地は早期解決の重要課題とし、具合的に明記したものを近日中に発表することを決めた。

以上